

第2号様式(第12条関係)

平成30年度第3回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 平成30年11月29日(木) 10時05分～11時40分
- 2 場所 大和市文化交流拠点シリウス6階 大和市生涯学習センター610大会議室
- 3 出席者 9名
- 4 傍聴人数 0名
- 5 議題
「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について
- 6 報告
平成31年度の街づくり啓発事業について
- 7 会議資料
 - ①次第
 - ②事後評価関係資料
 - ③資料1 平成31年度の街づくり啓発事業について
 - ④資料2 市制60周年記念事業(案)

■平成30年度 第3回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 平成30年度 第3回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 平成30年11月29日(木) 10時05分～11時40分

[開催場所] 大和市文化創造拠点シリウス6階 大和市生涯学習センター610大会議室

[出席委員] 9名(欠席:3名)

[出席] 黒石 いずみ/杉崎 和久/菅 孝能/江村 郁子/仲村 邦弘/星野 澄佳/山田 俊明/須賀 良二/宇津木 朋子

[欠席] 饗庭 伸/河村 奨/松本 久美

[事務局] 11名(街づくり計画部長、街づくり総務課長、街づくり推進課長、街づくり調査担当2名、街づくり推進担当3名、大和駅周辺市街地整備支援担当2名、道路安全対策課 道路整備担当1名)

[担当課] 街づくり計画部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 0名

[公開状況] 公開

I. 会議次第

1. 開会

2. 議題

「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について

3. 報告

平成31年度の街づくり啓発事業について

4. その他

5. 閉会

II. 内容

1. 開会

2. 議題

「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について

質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼「社会資本総合整備計画 大和市大和駅周辺地区まちづくり」の事後評価について説明。

○こちらについては、報告ということで、本日は主に、12月1日から開始するパブリックコメントについての説明と次回に向けての説明である。評価の指標等は既に決定している事項であり、主にご意見をいただくのは、パブリックコメントの意見を踏まえた次回の会議となり、我々は第三者的に意見

を述べるという位置づけであるが、事後評価書のフォーマットに限らない幅広い議論ができれば良いと思う。今回は、次回に向けての質問を主にお受けしたい。

○パワーポイント資料 14 ページの説明で「周辺商店街との連携」という表現があったが、現状と見込みについてうかがいたい。

▼現在のところ具体的な動きはないが、周辺商店街と連携するなどして回遊性の高い街づくりを進めていく方向性で、今後検討を進めたいと考えている。

▼現状としては、例えば阿波踊りのイベントを開催する際には、シリウスと商店街で互いに連携して事業を進めていこうといった取り組みを始めている。

○周辺商店街との連携という観点については、これまでどこにも触れられていなかったにもかかわらず、いきなりこの表現が出てくると、少し唐突な印象を与えてしまう。事後評価で課題としても全く触れていないので、例えば、Ⅲ定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況のところでは何らか触れておく必要があるのではないかと。

○パワーポイント資料 8 ページの説明で「都市機能更新率」という指標があったが、これは国と市のどちらの指標か。

▼「都市機能更新率」とは、国が示している指標で、一定地区内における 4 階建て以上の建物の割合を示すことで、どの程度高度利用されているかを測るもので、例えば再開発では防災性等を高めることは意義のあるものとして、国の指標を踏襲して市が設定した指標である。

○本日の資料のうち、パブリックコメントで公開するものはどれか。事後評価書（案）だけか。

▼そうである。

○この資料だけでは、指標の意味等、不明な点がある。運用上の課題として改善の余地があると思う。

○次回につながる意見として、この「都市機能更新率」は果たして大和市の都市経営上適切な指標なのか、本市の状況に照らして考えると疑問である。

○長い事業期間の中で、評価の指標については当初から全く変更しないものなのか。

▼平成 25 年当初は再開発事業のみが対象事業であった。その後、交通関係の事業及び評価指標を追加しており、この点において、指標の変更が行われている。

○定量的指標のほとんどが目標を達成しており、「都市機能更新率」のみ目標値に届かなかったことが何かに影響するのか。

▼目標値に届かなかったという結果を示しているにとどまり、この評価が何かほかの部分に影響を与えるというわけではない。

○オリンピックや震災の影響で資材が高騰したというような短期的な理由でシリウスの中・長期的な評価に影響を受けてしまうのは残念である。

▼説明の内容としては良いが、文言の根拠が準備されているか気がかりである。

パワーポイント資料 7 ページの「健全な」という表現について、何をもって健全としているのかの説明がなく、不明である。

9 ページの「市民課連絡所」と「イベント観光協会」が設置されたことも付随して利用者増加につながったとする根拠が明らかではない。

11 ページの「コミバスの満足度」について、アンケートにバスマップ作成によるものと明記していれば妥当な評価であるが、実際はどうだったのか不明である。

12 ページの値「10%」という目標設定自体がそもそも適正であるのか、適正であると判断した根拠を準備した方が良い。

14 ページの高質化をどのようにを進めるかについて青写真が準備されているのか、心配である。

20 ページの「まちのにぎわいの創出」について、商店との絡みについて言及されていない。シリウスを南北方向に走る通りには飲食店が増加しているので、そのようなデータがあると良いと思う。

○いずれにしても、いただいたご意見は、評価項目の設定や目標値の設定の根拠が分からないと、そもそも妥当かどうかの判断ができないというものであると思う。今回の事業では直接活かせないが、今後の評価にあたっては、運用段階の仕組みについて改善できるような意見についても、次回いただけるかもしれない。

○大和駅周辺まちづくりについての事業評価をシリウスを作ったということを指標として行おうとしている点から、各々の文言に矛盾が生まれていると感じる。

市の他の文化施設との関連性に着目し、以前からあったものをどのように活用して、良くなったのかという「更新」という言葉そのものの評価が見られないのが残念である。

○今回の評価は、事後評価書（案）2 枚目に記載されている通り、A-1 から A-5 の 5 つの基幹事業を対象事業として、大和駅周辺まちづくりの評価を行うものである。今回の評価は、事後評価（案）の事実と評価の因果関係・根拠付けが不明確である。先ほどいただいたような、指標以外の部分で、まちがこう変わったという生活実感についての意見について、次回の会議でうかがいたい。

○従来からどう変わったのかという視点が、私達が一番うかがいたい話である。例えば、せっかく完成したのに成人式が結局シリウスでは実施できなかつたと聞いている。数値や規格に囚われすぎず、市民の生活に即した視点が重要だと思う。

○今回は、事後評価の進め方、個別の評価の妥当性、市民感覚に関する意見等をぜひうかがっていききたい。

3. 報告

平成 31 年度の街づくり啓発事業について

質疑応答(○…委員 ▼…市)

▼「平成 31 年度の街づくり啓発事業について」と「市制 60 周年記念事業(案)」について説明。

※会長への事前説明時にいただいた意見についても紹介。会長からのご意見は次の通り。

- ・過去の街づくり賞で既に表彰しているものを再度表彰することの意義は何か。
- ・表彰までの過程が、市民を巻き込まない流れになっている印象がある。例えば、事例の関係者に自分の取り組みや景観の守り方について話をさせていただく等はどうか。
- ・例えば、20 年間しっかり残っている事例は、時間の経過に伴い、周辺になじみ落ち着いていき良好な景観を形成すると考えられるので、評価するべきではないか。

○市制 60 周年記念事業を中心に、サポーターの探索ツアーも含め、自由に質問や意見をいただきたい。

○市制 60 周年記念事業は、市全体なのか、部署毎なのか、どのような枠組みで実施されるのか。

▼60 周年記念事業という単独事業があるのではなく、あくまでも市制 60 周年記念を冠に部署ごとの各事業の中で各々の時期に実施されるものである。

- 未来に向けてということならば、過去の事例だけでなくサポーターの探索ツアーで新たな事例を発見して両方合わせても良いのではないかと。活動を20年以上継続するのは難しく、事例部門の建物等にフォーカスしてくると思うが、受賞した当社のビルも経年劣化で木の梁が腐食して撤去せざるをえず当時と変化している。事業の魅力としては、サポーターの皆さんの目で新しいものを探すことで、市民を巻き込むことも期待できると思う。
- 事例が残っていても色々な事情で変化しているものがあると思うので、事前インタビューのようなものをしておいた方が良いと思う。力仕事になるので、どう行うかは課題となるが、そうしないと投票の際に現地を見るとは限らないので、ホームページの情報だけではなく、事例の取組みをどう継続してきたか、事情があつて変えざるをえなかったというような情報を流してあげないと適正な判断ができないのではないかと。もう一つは、行政や推進会議にとっても今後の選考の際に継続しない短期的なものを選考してよいか等、評価基準を探す良い機会だと思うので大変な作業になるかもしれないが、やる必要があると感じた。過去の事例だけでなく周辺に良好な影響を与えた良い事例が新たに発見されれば過去の事例だけでなく新たなものも選考しても良いと思うので、過去と新規の2つ受賞があつてもよい。
- 一つの評価基準ではなく、例えば部門毎など評価基準の異なる実施の仕方もある。
- 同じ人が継続するのは難しいので、活動なども他の人が継承されているケースがあると思う。
- この時点で受賞事例について継続しているか否か等のデータを示してもらった方が良かった。建物等は劣化だけでなくエイジングという捉え方もあるので、その視点も忘れないようにしたいと思う。
- 当時と現在の比較で良くなっているものもあると思うので、経過の中で工夫している点等をインタビューで聞ければ良いと思う。
- 事例には経過した年数だけの物語があるはずなので、その部分も調査した方がよい。
- 投票する時に現在の写真と背景等の説明等ある程度の情報の整理をしないとストーリーや特徴が理解できない。そうなれば115件全部やるのか絞り込むのかということにもなる。
- ホームページの投票だけで決めるのではなく上位10~20件程度は調査や別の評価を加えて選考するなど、二重にして選考する方法もある。
- 多世代からの投票に対応するなら様々な手法が必要と思うが、投票方法は具体的に考えているか。
- ▼これからの検討となるが、例えばホームページからダイレクトに簡単に投票とコメントを入れられるようにする方法や、市のeモニターという登録された方から電子メールでアンケートが実施できる仕組みがあるので、今後これらの仕組みが活用できるかどうかも含めて委員の方の意見を伺って検討していきたい。
- ▼現状のホームページでも全受賞事例が見られるようになっており、写真と共に当時の推進会議の講評が掲載されている。今回の投票にあたっては事前に全事例の状況を調査し、現在の写真と共にヒアリングによって事例の維持や活動の継続などについて努力や工夫といった情報も加えるかたちで投票できるようにしたいと考えている。
- たぶん部門がいくつか別れると思う。例えば継続していることを評価するとなれば自ずと絞れるはずである。対象を十年以上継続している事例とすれば近年の事例は対象にならず、事務局側でも5つ位に絞った事例の魅力的な写真と継続してきた価値等の情報を整理するか、推進会議で議論しても良いかもしれないが、新しいものや人気投票など評価基準によって部門が別れたり選考方法が違う

ということも考えられる。ただ大賞は選びたいという面もあると思うが、全て現地に行ける訳ではないと思うので気を付けて選考する必要がある。

○たぶん辞退してくる事例や潰れている店もあると思うので、期間的には厳しいが、候補リスト作成の時点で推進会議が検討した視点で絞り込んだ上でホームページの投票を行う方が楽ではないかという気がする。そのようにかなり絞り込んだものを掲載した方が投票する側も楽かなと思う。全ての事例から良いと思うものに投票しろというのは丸投げしすぎかと思う。

○それと同時に 20 回の歩みと代表事例が掲載されたり、インタビューが載っていたりする冊子が出るかもしれない。ただ投票してもらうのは少し乱暴かなという気がする。あと活動が上手く継続していないものをわざわざ示さなくてもよいと思う。

○サポーターの探索ツアーでも街づくり賞の事例を調査するようだが、我々がどの段階で見られて、どの段階で評価の土俵にあがるのか等のスケジュールは考えているのか。あとサポーターの集いで検討している内容も評価軸の適正化を判断しておらず、受賞事例の良い悪いの多数決もしていないので、リサーチしたことが役に立つと思う。

○①市制 60 周年記念街づくり賞と②街づくり賞探索ツアーが連動していないので、選考している時にサポーターが街歩きをしてくれれば上手く連動すると思う。既にサポーター側は動いているので難しいのかもしれないが、別々に動くのはエネルギーの掛け方として勿体ない。

▼時間があるようでスケジュールとしては厳しいが、行政主導の街づくり賞と同時にサポーターの方で同じようなことをやっているという評価が引っ張られてしまうことも懸念される。

サポーター主体という表現が良くないのかもしれないが、来年度に必ず開催しなければ困るということではなく、あくまでもサポーターの方の進捗に合わせていくことだと思う。街づくり賞と探索ツアーがコラボレーション出来るのであれば、その方が良いと思う。

市制 50 周年では「伝えたい残したいやまとの景観」を実施したが、同じことはできないので、今回のような提案をさせていただいた。本当に 20 回分の 115 件の優劣をつける必要があるのか、様々な視点でまとめた良い評価基準を通して顕在化した事例をプレゼン等してもらうのか。行政は賞を作りたくなってしまうが、これまでの街づくり賞表彰式の際に受賞者の感想で活動や事例の経過や思いを語ってもらったことが良かったという意見を多くいただいたので、賞を与えることよりかは、その辺りに焦点を当てられればよいと思う。周知時期等を示したスケジュールも含めてゴールのあり方を今年度まだ 2 回開催予定なので今回の意見を参考に検討していきたい。

○サポーター主体事業と 60 周年記念事業のどちらのスケジュールに合わせるかは別にして、周知・投票の時期にツアーをすると相乗効果がある。

○被災地の方で景観について取組んでおり、景観の良し悪しについて外部の専門家が判断するというのは文化遺産的には重要なかもしれないが、住民達が知っている原風景も非常に重要であり、自分達で作っているとか守っていることの方が他所からの偉い人達が来て作ってくれたものより大事だと皆言っている。サポーターのペースに合わせて住民から聞ける物語や苦労話や工夫こそが重要だと思うので、ゆっくり進めていくことに賛成である。

○市制 60 周年記念に見合うような商品や賞金などがあると華があつてよいと思う。例えば受賞した事例に対して次年度に街づくり条例の仕組みを活用して活動助成金が出せないかと思う。

○意識の高い地域では自分達で冊子に写真や物語を載せて自分達の地域史のようなものを作成し

ており、昔も振り返ることができてとても良い。

- 一等賞にはそのような冊子の製作費を出すなど、60周年という枠であるためで少し華やかさが欲しい。
- 面白い例として、郊外の高齢化した廃れた街で「〇〇通り」や「△△スポット」のようにメダルのようなものを小学生と地域の住民が作って掲示板やフェンスに貼っていて良い感じである。
- 横浜でまち普請の審査をしているが、通りに名板を付けるだけでなく消防に伝えておいて緊急時にも役立つ。受賞すると活動費が助成され次のステップに活かせる街づくり賞につながる。
- ▼みんなの街づくり条例に基づく街づくり組織に対しての助成はあるが、そのような制度は今のところないので、今回の街づくり賞で実現できるかは即答できないが参考にさせていただく。
- 街づくり条例の助成金の枠を使用してしまうのが落としどころかなと思って意見した。
これまでの意見で長く継続している取組みと未来に向けた取組みを評価するという大きく2つ出ているが、他にいくつか評価項目があれば挙げてもらえると良いと思う。
- 事業名にあるように、例えば「ベスト オブ 街づくり賞」はその時の投票によるもの、「殿堂入り街づくり賞」は長く継続して貢献しているもの、「街づくり賞遺産」は周辺に良好な影響を与えているなどと想定できるので、絞り込んだ事業名毎に定義付けしていけば各々の評価軸が定まってくるのではないかと。実際には表彰する対象はそんなに多くはないと思う。
- 思い浮かぶ事例があまりないので、話を聞いてみないとわからないものがある。
- 事務局が115件を棚卸的に調査して整理すれば、だいぶ絞れてくるのではないかと思う。
- ▼115件の内プレゼンまでしてくれそうなのはそれほど多くないと思われるし、表彰するという事よりも共有するような苦労話を伝えていただくことに視点を置くなら115件を広く薄く調査して推進会議に相談させていただきながら絞っていききたい。
- 100件なのか20件なのかで、方法も変わってくる。
- 当初は割と公共施設の受賞が多かったので扱いをどうするかということもあり、公共施設を外すことで少し絞れるのではないかと。
- 今回は市民が持続的に地域の環境を良くしているものを対象にすれば、自動的に公共施設は外れてくるが、地域の方達が深く関わっている公園があれば対象にすれば良いし、活動が伴っているなど今回の枠組みをどう作るかということだと思う。
- 時代の趨勢が移り変わっており、目に映るものに対して評価する視点から、人不足や共働き等によって地域活動に注ぐ余力がないなど、逆に人集めが大変な中での地域の活動における苦労等も視点に加えていただきたい。
- いずれにしても20年以上を振り返って長く継続していることを評価したい流れと、それがどの位のボリュームなのか大まかな整理をしてもらって次回の議論をした方が良いと思う。
- ある程度継続した上で評価している活動等もあると思うので、継続年数や構成員等も分かると拾えるなどという場合もあり、調査の際に忘れないでほしいと思う。
- 最終的には必要だと思うが、まずはそこまで出来なくても次回は大まかな整理で良いと思う。
実際には波及効果等いくつかの項目の事例シートのようなものでヒアリングしたものを評価し、それが資料になってくると思う。
- 市制60周年記念ということもあり、公共でなければ出来ないものもあって今回ポラリスも完成して子供達も集まっており、隣のツリーガーデンと一緒に出来上がる空間や活動があるので公共を評

価する視点もあって良いのではないかと思う。さくらの散歩道も同様である。

▼公共単独ではなく市民目線でそこで活動しているような場合に表彰するように考えている。

○行政が整備したもので市民が上手く使いこなしているようなものは対象になるかもしれない。

▼これまでの街づくり賞も公共施設等が対象から除かれていた訳ではないので、例えば3年後の街づくり賞にポラリスが対象になることは考えられる。今回の案は115件の事例を推進会議で選考するのは不可能なので、市民投票により20事例程度に絞ってから推進会議の評価基準で選考いただく提案であるが、最初の段階から推進会議で絞込みの検討をいただけるということであれば、まずは次回までに全受賞事例を調査して絞り込んだものを用意したい。

▼絞込みをするかしないかではなく、一ヵ月程度しかないのでは全ては難しいが、まずは115件を確認していただくための整理をして、議論いただいた上でどうするか検討していきたい。

○115件を絞り込むのに投票してもらうには115件の情報を揃えなければならないが、ある程度絞り込んで詳しく調査されたものを読み込むことが啓発にもなる。街づくり賞を知ってもらいながら投票してもらうには、115件だと多すぎて無理である。

推進会議で絞り込むのではなく出来れば事務局で15件位に絞り込んでもらうとよい。

▼夏に投票してもらおうとするから厳しくなり毎回同じだが3月の表彰までのタイムラグがあるので忘れられてしまうとか投票した市民が結果をすぐ知りたいというニーズなどが踏まえられていない。その辺も少し考えてスケジュールをずらして整理が出来ればある程度の準備が可能であるし、スケジュール変更が難しいようであれば、申し訳ないがかなり作業量を削りながらになる可能性もあるので、年度内の2回で検討させていただきたい。

○いずれにしても街歩きや投票が盛り上がっていくような仕掛けを工夫をした方がよい。

○受賞事例を見ると個人宅の美化や店舗などグルーピングできそうなので、例えば個人宅であれば評価視点や与えたい賞などのたたき台があると議論しやすい。

○個人宅でも長く継続しているものもあるし、公共でも地域住民が深く関わっているものもあるので事務局で仕分けして整理してほしい。

4. その他

事務局より事務連絡

5. 閉会

以上